

水産資源の評価についてゼミを開催

国の水産政策が改革され、日本でも国際標準の新たな資源管理システムが導入されることとなりました。これは、水産資源の回復と持続的な利用を目的としたものであり、京都府においても水産資源の調査や管理を強化する必要があります。そこで、「新たな資源評価手法」をテーマとしたゼミを当センター及び水産事務所職員を対象として7月3日に開催しました。本ゼミでは、資源評価の基本的な考え方について担当者が説明を行い、これについて多くの職員間で議論し、各人の理解を深めました。

また、水産政策改革に伴う「京都府漁業調整規則の改正」についての意見交換会も水産事務所によって同日開催されました。

今後も、積極的に水産事務所と連携してこのような機会を設け、京都府の水産振興に貢献していきたいと考えています。



ゼミでの質疑応答及び議論

国際的な基準:MSY(最大持続生産量)

- MSY:その資源にとっての現状の環境条件のもとで持続的に達成できる最大(あるいは高水準)の漁獲量
⇒資源を獲りすぎない、無駄にしない基準量
- 世界的に水産資源が減少している中で、漁業擁護派と環境重視派は意見が対立することが多い。
⇒MSYの導入に関してはどちらも肯定的

ヨーロッパ諸国、北米、オーストラリア、
ニュージーランド、南アフリカ等、
各国がMSYを導入

講演スライドの一部